

# 平成26年度 事業報告書

特別養護老人ホームさくら  
ショートステイさくら  
デイサービスセンターさくら  
特定施設さくら  
居宅介護支援事業所さくら

社会福祉法人横手福社会

## 1. 法人事業概要

- (1) 法人名 社会福祉法人 横手福祉会
- (2) 所在地 秋田県横手市駅前町14番9号
- (3) 設立認可年月日 平成21年 8月 10日

### (4) 法人事業

#### 第1種社会福祉事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
地域密着型介護老人福祉施設	特別養護老人ホームさくら	29名	平成22年4月1日

#### 第2種社会福祉事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
短期入所生活介護	ショートステイさくら	20名	平成22年4月1日
通所介護	デイサービスセンターさくら	20名	平成22年4月1日

#### 公益事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
地域密着型特定施設入居者生活介護	特定施設さくら	29名	平成25年4月1日
居宅介護支援事業	居宅介護支援事業所さくら		平成25年4月1日

#### その他の事業

なし

## 2. 職員状況

種別	平成27年3月31日現在 職員配置数					平成26年度中 退職者数	平成26年度中 入職者数
	特養	SS	DS	特定	居宅		
施設長	1						
事務局長	1						
管理者				(1)	(1)		
事務職員	2			2		1	1
生活相談員	1	1	2	(1)	—	1	1
介護支援専門員	1	—	—	1	(1)		
介護職員	16【2】	8【1】	5	14【1】	—	5	7
看護職員	1	1	【1】	1	—	2	1

種 別	平成 27 年 3 月 31 日現在 職員配置数					平成 26 年度中	平成 26 年度中
	特 養	S S	D S	特 定	居 宅	退職者数	入職者数
機能訓練指導員	【1】	【1】	1	【1】	—		
管理栄養士	1					—	
調理員	5 【2】					—	1
介護補助員	【1】	—	—	【1】	—		2
清掃員	【2】					1	1
合 計	81 名 *2名の産休者を含む					11	16

\* ( ) 書きは同部門の他職種が兼務

【 】書きは非常勤職員

### 3. 職員会議、委員会等活動報告

#### (1) 第1回全体会議

開 催 日 : 平成 26 年 4 月 1 日

出 席 者 : 理事長、施設長以下、法人全職員対象

内 容 : 辞令交付、新入職員紹介、事業部実績ほか各報告

#### 第2回全体会議

開 催 日 : 平成 26 年 8 月 1 日

出 席 者 : 理事長、施設長以下、法人全職員対象

内 容 : 倫理規定周知、各事業部報告ほか

#### (2) 運営会議（リーダー会議）

開 催 日 : 毎月 15 日 11 時から 1 時間

出 席 者 : 施設長、事務長、各事業所管理者、相談員、リーダー、栄養士、  
特養・特定介護支援専門員

内 容 : 前月の各事業部の運営状況の報告や、課題に対し改善に向けた意見交換、  
確認事項の周知徹底を図る。

#### (3) 業務改善・生活向上委員会

毎月第3火曜日に開催。利用者の生活において快適な環境整備を図ることを目的とする。活動報告としては、各事業部において利用者が実際に使用する物品等で、改善が必要なことに対し話し合いを行い、職員の介助時の腰痛予防に努めた。

また、秋には特養とショートステイのユニット名が決定。同時に勤務時間も変更し、利用者の生活リズムに合わせた職員配置となるようにした。

(4) 研修委員会

毎月第2火曜日に開催。コンプライアンスの徹底と職員の資質向上に努めることを目的に活動した。定期的な職場内研修の開催のほか、職員が望む研修が実施できるようアンケートをとり次年度につなげている。

(5) 事故防止委員会

毎月第4月曜日に開催。介護事故の予防に努めるほか解決策の話し合いを行い、事業部にフィードバックできるよう、インシデントとアクシデントのすみ分けを実際の内容から分析し作成した。年2回の勉強会では実際に起こった事故の内容に対し予防策をグループで話し合った。高齢者疑似体験ではロールプレイを行い、利用者の立場を体験することで介助上での配慮が必要な部分や注意点を体感することができ、その後のケアの場面に活かしている。

\*26年度事業部別 事故・ひやりハット件数

	特養	SS	DS	特定
ひやりハット件数	140件	63件	31件	30件
事故報告件数 (うち行政報告)	78件 (3件)	56件 (1件)	7件	25件 (2件)

\*事故報告内容の分析

《特養》

ひやりハットの半数以上が内出血の発見で同一入居者に集中するケースが多い。事故に関しては骨折やその疑いで病院受診になった大きな事故が発生した。高齢者は皮膚・骨ともに非常に脆く、発見・発生の都度対策を検討し実行しているが、安全と思われている介助の中にも危険があることを今一度認識する必要がある。

《ショートステイ》

緊急時や短期間での利用の際、十分な状態把握ができないまま利用となり事故につながってしまうケースが多い。

《デイサービス》

確認不足による忘れ物や送迎の間違いなどが目立つが、介護事故は少ない。

《特定施設》

「出来ることは自分でやる」と考え生活されている方が多いが、実際のADL状態との違いで転倒・落薬等につながり事故になってしまうケースが目立つ。

(6) 感染予防委員会

毎月第2木曜日に開催。感染予防、衛生管理の適切な処遇を図ることを目的として活動。委員会のメンバーが正しい手洗い手技を身につけ、職員へ正しく指導ができるよう委員会内で手技やポイントを学び、各部署で委員が中心となり手洗い指導を実施。

また、感染症発症時及び感染症が疑われる場合の報告手順書を作成、各部署に配布済み。これらの取り組みから26年度も大きな感染症の発症もなく経過している。全職員が早期に予防

対策を行っている結果と思える。

(7) 行事委員会

毎月第3水曜日に開催。利用者の余暇活動の充実を図ることを目的とし、夏祭り・敬老会・文化祭を行った。夏祭りでは暑い時期での開催となるため、出し物等の時間配分や開始時間の検討が課題として残った。敬老会では、26年度は1日を通して（午前式典、午後余興）の開催としたが、午前中で疲れてしまう方が多く午後の部に参加できる方が少なかった。文化祭では初めてバザーを開催し好評であった。利用者作品展示も外部の方々から好評で、今後はさらに地域を巻き込んだ内容の検討・実施が必要である。

(8) 給食委員会

毎月第3月曜日に開催。食事内容等について利用者のニーズを反映し、安全に美味しい食事を提供できるようにしている。26年度は利用者の声を聞くことを目標とし、各部署に「お食事感想ノート」を設置。利用者の声を職員がノートに記入、会議の場で話し合った。また、特養・ショート・デイサービスで使用するご飯茶碗、どんぶりを使いやすいものへと変更した。

(9) 広報委員会

毎月第4水曜日に開催。施設の取り組みを広く公開することを目的とする。26年度は予定通り年6回発行し、文字を大きくし紙面もA3片面からB4両面印刷に変更。「職員紹介リレー」・「研修実施報告」・「掲示板」を毎号掲載し、施設の取り組みやイベントを告知し情報発信に努めた。

(10) 安全委員会

「介護職員によるたん吸引等研修」を安全に行うために設置。26年度は介護職員の人員の都合で研修には参加できなかったが、25年度からの継続研修者がおりそちらは無事に終了した。

(11) 入居判定委員会

公平かつ公正な特養・特定施設への入居となるよう、その判定を行うために不定期で開催。施設長・管理者・生活相談員・看護職員・介護職員・栄養士・介護支援専門員等で構成。特養では9名、特定では8名の方が入居された。

## 4. 職 員 研 修

(1) 施設内研修 等

日 時	研 修 内 容	講 師 名	開催場所	参加人数
5月15日	電話応対（接遇について）	研修委員	デイルーム	20名
6月12日	排泄ケア（おむつの当て方）	外部（メーカー）	会議室	4名

6月15日	救命救急講習	外部	横手消防署	7名
7月20日				9名
8月17日				2名
9月22日	虐待防止について	事故防止・研修委員	デイルーム	33名
10月8日	認知症ケアのアセスメント	研修委員	デイルーム	29名
10月24日	プライバシー保護について	研修委員	デイルーム	42名
11月7日	言葉のリスクマネジメント	外部講師	デイルーム	30名
11月25日	口腔ケアについて	外部（横手保健所）	会議室	27名
12月17日	感染症予防について	外部（横手保健所）	会議室	18名
2月17日	認知症ケアのアセスメント	研修委員	デイルーム	25名
3月16日	高齢者疑似体験	事故防止・研修委員	デイルーム	32名

(施設外研修等)

開催日	研修内容	職種・参加人数
5月29～30日	福祉保健施設 研修担当職員研修	生活相談員 1名
6月2～3日	福祉保健施設職員 新任研修	介護職員 1名
6月10日	横手市栄養士研修会「集団調理による衛生管理」	管理栄養士 1名
7月10日	事例から学ぶ管理者の事故対応	管理者、相談員 2名
8月21日	新会計基準移行セミナー	事務職員 1名
8月25～26日	福祉保健施設 中堅職員研修 組織性	介護リーダー 1名
9月3日	地域包括ケアシステムの構築にむけて	生活相談員 2名
9月12日	県南地区給食施設関係者研修会	調理員 1名
9月26日	スキルアップ講習 記録の書き方	介護職員 1名
9月28日	褥瘡創傷ケア推進委員会 床ずれセミナー	介護職員 1名
10月2～3日	県老協 施設長研修	施設長 1名
10月8～9日	エクセルによるビジネス文書作成講習	事務職員 1名
10月14日	虐待防止セミナー	生活相談員 1名
10月28日	福祉保健施設 施設長研修	施設長 1名
11月4～5日	個別ケアの関する職員研修	介護職員 1名
11月5日	事業者支援セミナー	施設長 1名
11月7日	福祉保健施設 事務職員研修	事務職員 1名
11月11日	横手市栄養士研修会 第2回研修会	管理栄養士 1名
9月9日～ 11月14日まで	認知症介護実践者研修	介護職員 1名
11月14日	横手市老協 職員研修会	介護職員他 計11名
12月3日	ビジネスマナー・電話対応マナー	介護職員 1名
12月4日	福祉実践報告2014	介護職員 2名

12月9日	横手市栄養士研修会 第3回研修会	管理栄養士	1名
10月2日～ 12月12日まで	認知症介護実践リーダー研修	介護統括リーダー	1名
12月19～20日	安全な介護 実技講座 基礎編	介護職員	2名
1月15日	認知症の診断・治療と医療・福祉の連携	生活相談員	2名
1月16日	調理技術研修 高齢者向けメニュー	調理員	1名
2月6日	社会保険と雇用保険の基礎	事務職員	1名
2月12～13日	県老協 施設長研修	施設長	1名
2月13日	労務管理講習会	事務長	1名
3月6日	介護従事者講座 記録の書き方	介護職員	2名
3月9～10日	県老協職員研修	生活相談員	1名
3月17日	能力開発啓発セミナー	事務職員	1名
3月18日	スキルアップ講習 記録の書き方	介護職員	1名

## 5. 平成26年度 行事報告

開催日時	行 事 内 容
6月25日(水)	全事業部合同自主避難訓練
7月27日(日)	第5回 さくら夏祭り 駐車場にて開催
9月14日(日)	敬老会(午前式典、午後余興。赤飯やお刺身などの行事食でお祝い)
11月3～8日	文化祭開催(利用者作品展示 最終日にはバザーも開催し好評だった)
11月17日(月)	全事業部合同避難訓練
12月24、25日	クリスマス会(行事食・各事業部で趣向を凝らし実施)
1月1～3日	正月行事
2月3日(火)	節分 豆まき(職員が鬼に扮し各事業部をまわる)
3月3日(火)	ひな祭り(行事食)

## 6. 平成26年度 ボランティア・実習生、視察受け入れ

日本赤十字秋田短期大学	介護福祉学科 介護実習	1名
秋田大学	介護等体験実施(教育学部 学生)	1名
介護職員初任者研修	6、9月の2回受け入れ	計 3名
認知症介護実践者研修1・2		計 20名
認知症介護実践リーダー研修		4名
夏祭り、敬老会ボランティア		40名ほど
学生ボランティア	湯沢翔北専攻科学生、盛岡市内専門学生	計 5名
花輪福祉会 東恵園 家族会	施設見学(ユニットケアについて)	職員、家族計 8名

## 7. 平成 26 年度 各事業部稼働率

事業部	定員	営業日数	年間平均稼働率	一日平均利用者数
特別養護老人ホーム	29 名	365 日	98.0%	28.4 人
ショートステイ	20 名	365 日	89.5%	17.8 人
デイサービス	20 名	310 日	70.3%	14.2 人
特定施設	29 名	365 日	95.8%	27.7 人
居宅介護支援事業所			登録件数	月平均 24.3 件

## 8. 平成 26 年度 まとめ

開設から 5 年目となった 26 年度はこれまでの期間の課題と当初の計画から、「職員個々の人間性や介護知識・技術を育成し、地域から信頼され安心を提供する」ことができるよう、「職員の資質向上と組織体制作り」の実践に向け取り組んだ一年であった。25 年度の反省を基に、介護現場ではケアの関わり方・ケアプランの見直し・記録の書き方等について、各事業部でのカンファレンスや会議で検討し進めてきた。法人全体では、職業倫理の周知徹底・各委員会主体の施設内研修の充実・外部研修への積極的参加促進を、これまで以上に行うよう努めた。実習生やボランティアの受け入れを継続的に行ったことが、介護職員不足解消につながったのではないかと考える。

利用者様との関わりの場面では、職員の不祥事から利用者様はじめ関係各所の方々に多大なご迷惑をかけてしまった。倫理規定の徹底を図り、改めるべきところは改め伸ばすところは伸ばす、という姿勢を強くもち、「利用者様の不利益となることは絶対にしてはならない」ということを、細やかな場面でも伝えていく。当たり前のことを当たり前でできる職員を育てることが、法人全体の信頼となり経営に結びつくものと考えている。

26 年度から新たに「集いの場（カフェ）」と題し、毎月第一土曜日の午前中に施設が地域の社会資源になるよう相談や見学を受け付けた。まだまだ周知不足ではあるが、今後も継続しながら法人理念である「住み慣れた地域で安心して暮らせるサービスを提供する」ことができるよう法人全体で取り組んでいく。

以下、26 年度の各事業部の報告を致します。

### 特別養護老人ホームさくら

年間稼働率は 98%、前年同様でした。入院数、退居者数と 25 年度より多く出ましたが入院から退院へとスムーズにつながるようこまめに状態確認を行ったほか、日頃から居宅介護支援事業所との連携を図ったことで稼働率の低下を防いだ。職員も他職種との連携を図り、入居者様の変化に対し早期発見・早期対応ができています。また 26 年度は前年の倍となる 7 名の方が施設での看取り対応で永眠された。人生の最期を穏やかに過ごせるようにかかわった一方で、亡くなるまでの時間では多くのことを学ばせていただいた。(水分や食事量低下、状態が落ちていく様など) 十分な支援ではなかったかもしれないが、お一人お一人から感じたことを次に活かすよう引き続き勉強会等を開催し学び支援していく。

重点目標として 1.ユニットケアの推進および構築、2.他職種連携を図り安定した稼働につなげる、を掲げた。1 については具体的な取り組みとならず今年度も継続。ユニット名の決定や勤務時間の変更を行



い、入居者様の生活時間に合わせた勤務時間・職員配置とした。業務内容については都度確認しながら入居者様の生活に支障がないように配慮している。2については、主に定期的なユニット毎のカンファレンスの場を利用し情報の交換・共有を図っており、必要に応じてご家族様にも協力を頂きながら進めている。

今後も一つ一つの事柄を丁寧に行っていくこと、PDC Aサイクルで評価し、次にどうするのかを具体的に示し実行することなどを確実に図っていくことで、安定した利用が継続できるよう努めていく。

特別養護ホームさくら入居者情報  
(年齢構成)

平成 27 年 3 月 31 日現在

年 齢	69 歳以下	70～79 歳	80～89 歳	90～99 歳	100 歳以上
男 性	0	0	4	1	0
女 性	1	3	1 2	8	0
合 計	1	3	1 6	9	0

男性平均年齢 87.2 歳 女性平均年齢 85.7 歳 総合平均 86 歳

(介護度)

介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
男 性	1	0	2	0	2
女 性	0	2	4	8	1 0
合 計	1	2	6	8	1 2

男性平均介護度 3.4 女性平均介護度 4 総合平均介護度 3.9

- ・1 年間で入院された方・・・9 名（骨折、肺炎、心不全ほか）
- ・1 年間で退居された方・・・9 名（うち 7 名が施設で看取り、2 名は入院後病院にて死亡）

\*特養での取り組み紹介

9/5－花火大会 11/27－ミニ運動会

ショートステイさくら

年間稼働率は 83～95%の間で経過している。25 年度に比べるとプラス 4%、一日平均 17.8 人と目標の 90%超えまであと僅かであった。緊急時の受け入れや調整を順調に行えたことが、プラスとなった要因の一つと考える。11 月後半から 12 月にかけてユニット内での風邪症状が蔓延し、感染症予防対策のため受け入れを制限したこともあったが、速やかな予防策実施で拡大することなくその後は落ち着いている。介護報酬改定に伴いショート長期利用者の収入が減算される事となり、定員の半分を占めている当事業所にとって大きな痛手となるが、ケアの質を落とすことなく利用者、ご家族様が安心して利用できる事業所となるよう、今後も関係各所と連携を図りながら進めていく。

デイサービスセンターさくら

年間の平均稼働率が開設 5 年目にして初めて 70%を超えた。毎月の稼働率は 70%を超える月が殆ど（最高は 73%）であったが、新規利用者は 22 名と前年に比べ 8 名少なく、また当日の空に対してのスポッ

ト利用の活用や、冬期間の利用減少を抑えることもできず目標の75%には届かなかった。

サービスの内容としては、新規利用者の大半が運動を目的としており、作業療法士を介しての支援がさくらの強みとなり、利用者・ご家族・ケアマネジャーからの一定の評価を得ている。また外部講師を招いてのマイカップ作りやクッキングレクなどのレクリエーションを充実させ、利用者満足につながる関わりを多く持った。

ご家族・担当ケアマネジャーとの連携では、送迎時の会話や態度に注意し明るく挨拶するよう心掛けた。ご家族様からの伝言は連絡帳を利用し情報伝達の漏れがないようにした。26年度大きな取り組みとしては利用者様を含めた「介護者交流会」を開催、実際の事業所の動きを見ていただきご家族様から好評であった。

### 特定施設さくら

2年目となり稼働率は95.8%。一日の平均利用者数が27.7人と常に1人不足している状態であった。入院、退居が多かった月の稼働率が90%前半となってしまう年間の数字となって表れた。

特に6月は入院が4名、11月には入院2名・退居者が3名となり、次の入居となるまで時間がかかったことが要因として挙げられる。今後はさらに居宅介護支援事業所等との連絡を密にし、速やかに入居につながる体制を作っていく。

入居者様の生活の場面では、季節毎の行事への取り組みを入居者様に教えていただきながら実施した。地域交流の部分では不足している事も多いが、市民文化祭やイベントに出掛けた際に声をかけていただくこともあり、今後も無理のない範囲内で地域に出て行き関わりを持っていきたい。

また、人生の終末期としての「家」として安心して過ごせること・自分の時間が持てること・家族が集えること等、過ごしやすい環境となるよう努めた。

健康管理面では介護から看護への報告を密にし、体調変時には主治医に連絡し受診するなどスムーズな対応を行っている。

### 入居者情報

平成27年3月31日現在

(年齢構成)

年 齢	69歳以下	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上
男 性	1	0	5	2	0
女 性	1	2	13	5	0
合 計	2	2	18	7	0

男性平均年齢 84.8歳 女性平均年齢 85.7歳 総合平均 85.4歳

(介護度)

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男 性	1	2	2	2	1
女 性	7	3	6	2	3
合 計	8	5	8	4	4

男性平均介護度 3.0 女性平均介護度 2.6 総合平均介護度 2.7

- ・1年間で入院された方・・・15名（精神症状悪化、脳梗塞、尿路感染、末期癌等）
- ・1年間で退居された方・・・8名（在宅復帰、病院にて死亡、他施設へ入居、さくら特養へ入居）

\*特定施設での取り組み紹介

4/27－花見、食事会      5/11－母の日（パンケーキ作り）      6/15－父の日（ギョーザ作り）  
 6/23－マイカップ作り（デイサービスにて）      6月～毎月第3水曜日      らくらく体操      開始  
 10/15－芋煮会      10/12－合唱フェスティバル見学      ほかに初詣、初売り      …など

## 居宅介護支援事業所さくら

昨年に比べ月平均の実績件数は14件増えた。事業所として2年目、地域包括支援センターから要支援の方の紹介や、利用されている家族様からの紹介などもあり26年度末では33件の登録となっている。月ごとの訪問を繰り返すうちに利用者・家族様からの信頼を得られ、そこから次につながる情報が寄せられたことも多かった。目標の一つに在宅介護の支援と挙げた通り、家族の方々が感じていることに対し、都度利用できるサービスの提案や説明も行い介護負担の軽減に努めることができた。27年度は2名での運営となるため、今まで以上に関係各所と連携を図りながら引き続き利用人数の増につなげていきたい。

## 医 務

年間目標は① 入居者・利用者一人ひとりの状態変化に応じた健康管理に努め、充実した日常生活を送れるよう支援します。② 入居者・利用者一人ひとりが、安全な環境で、安心・安楽に過ごせるよう努めます。の2点でした。評価は以下の通りです。

- ・介護職員と連携しながら個人の状態をより細かく把握することができ、快適な生活環境を整えることができた。
- ・発症時は嘱託医またはかかりつけ医と連絡をとり、医師の指示の下、早急に対応することができた。必要時の病院受診も円滑に行えた。
- ・必要な医療行為と本人が望んでいる事を天秤にかけた場合、安静を強いることばかりではなく、生活の質を担保し支援することも必要である、という柔軟な考えが持てるようになった。
- ・前年に比べ施設での看取りを望まれる方が多かった。本人・家族の想いを一番に考え、施設でできる範囲内で支援した。引き続き「さくらで最期を過ごせてよかった」と感じてもらえるよう、健康なうちからの話し合いの必要性を感じている。

## 厨 房

「時間を守り、丁寧な仕事を心掛ける」を目標に、具体的には① 配膳間違えを減らす。② 利用者人数増に伴い、個人対応も増えており確認を怠らない。③ 特定施設との連携をスムーズに行う。を心掛け、皆でカバーし合いながら大きなトラブルや感染症の発症もなく安全に食事を提供できた。

食事内容では、その時々で季節を感じる食材を取り入れる工夫をしている。特に毎年春には、ユニットで揚げる山菜の天ぷらを皆さんとても楽しみにしており実際大好評です。また時には食材の下処理を利用者様と一緒に行うなどし、食べること以外の楽しみの機会を設ける工夫もしている。